

門川町新庁舎建設に関するアンケート調査結果

現在の役場庁舎は、昭和 43 年に建築された建造物で建築後約 50 年が経過する中で、行政需要の多様化等に伴い、窓口の分散化や地震対策の面など様々な課題が挙げられます。

門川町役場も平成 15 年度に耐震補強工事を施工しているものの、将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震における津波想定では、約 2～5m の高さの津波浸水も想定されていることから、防災拠点施設としての機能が危惧されており、「新庁舎建設」については、町政の重要な課題と考え、災害時に町民の命と財産を守り、災害活動時の中枢管理機能を果たす防災拠点施設としての新庁舎建設に向けた取り組みとして、現在、基本構想の策定を進めており、その参考の 1 つとするため、町民アンケート調査を実施しました。今回は、そのアンケート調査結果についてお知らせします。

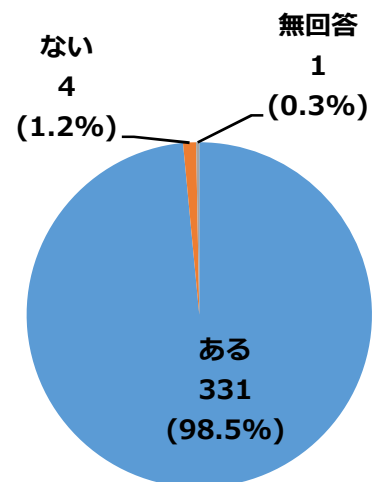
■調査の概要

- 調査対象：門川町内に在住する 18 歳以上の男女 1,000 人
- 抽出方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出
- 調査方法：アンケート用紙を対象者に郵送し返信用封筒により回収
- 回収数： 336 件（回収率：33.6%）
- 調査期間：平成 29 年 4 月 7 日（金）～平成 29 年 4 月 21 日（金）

(1) 役場利用の有無

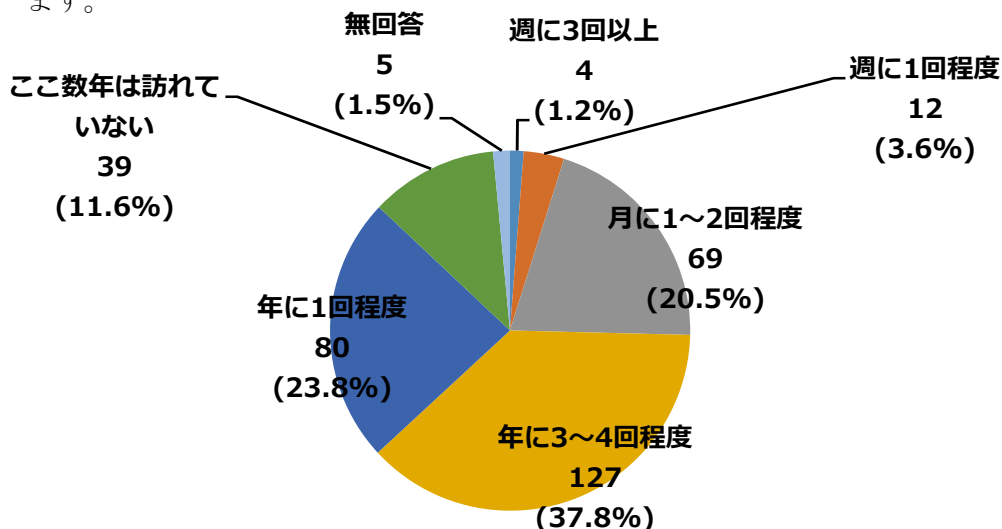
これまで役場を訪れたことがありますかという問いに対しては、98.5%の方が「ある」と回答しており、ほとんどの方がこれまで役場を利用されています。

なお、役場の利用者の有無を回答者の属性で見ると、「年齢」では「29 歳以下」の方の利用率が低い傾向が見られました。



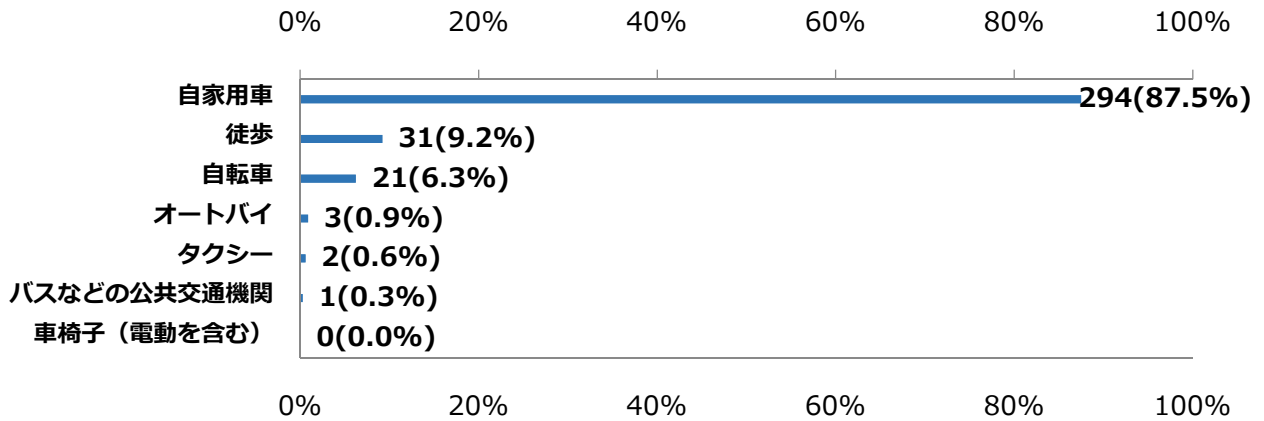
(2) 役場の利用頻度

役場を訪れたことが「ある」と答えた方に、概ね 2 年以内の利用頻度を聞いたところ、「年に 3～4 回程度」が 37.8%と最も多く、次に「年に 1 回程度（23.8%）」、「月に 1～2 回程度（20.5%）」と続き、この 3 つの回答が全体の約 82%を占めています。



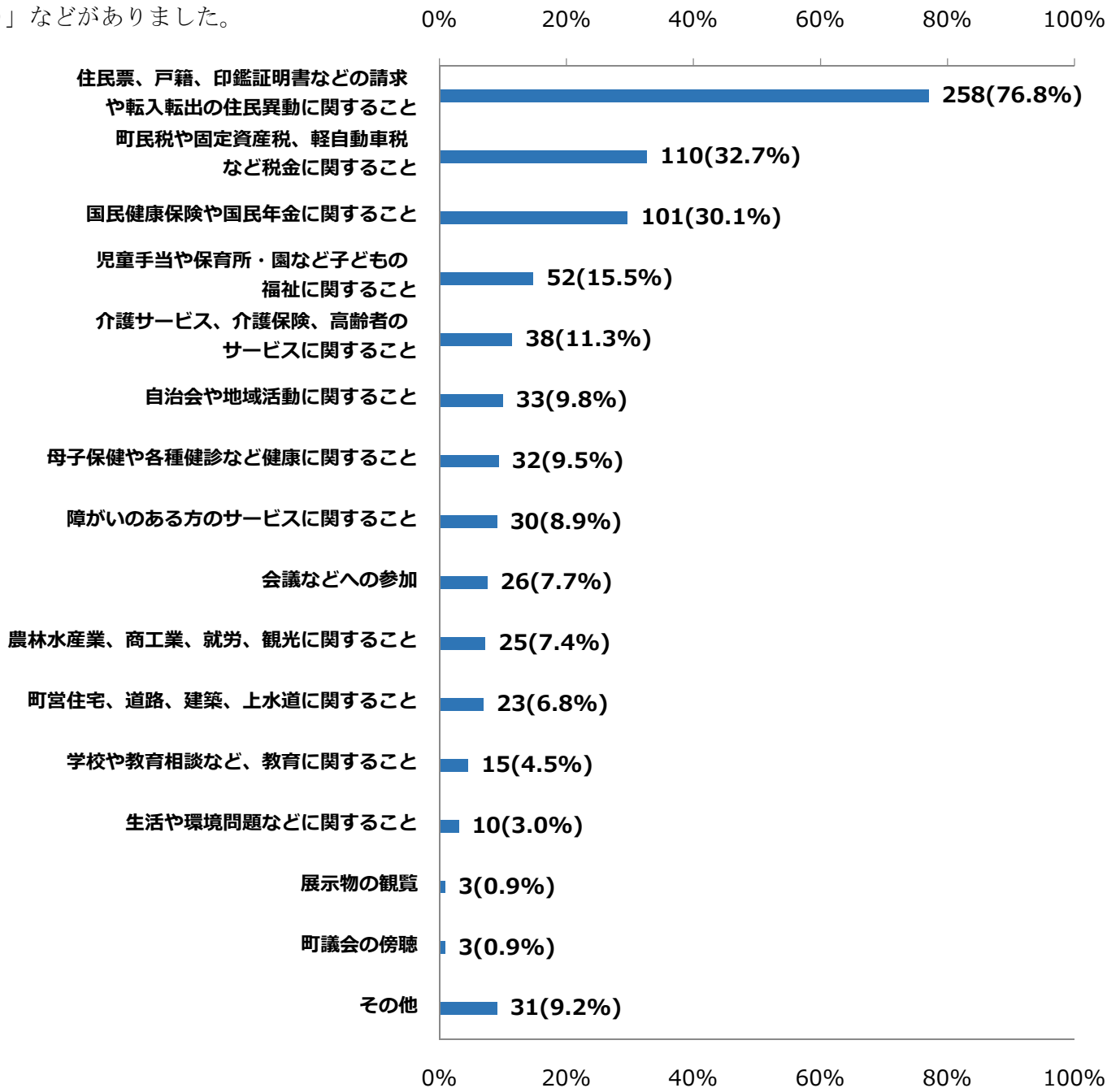
(3) 役場への交通手段

役場に訪問したことが「ある」と答えた方に、訪問の際の交通手段（該当するものすべてに回答）を聞いたところ「自家用車」が87.5%と大半を占めております。



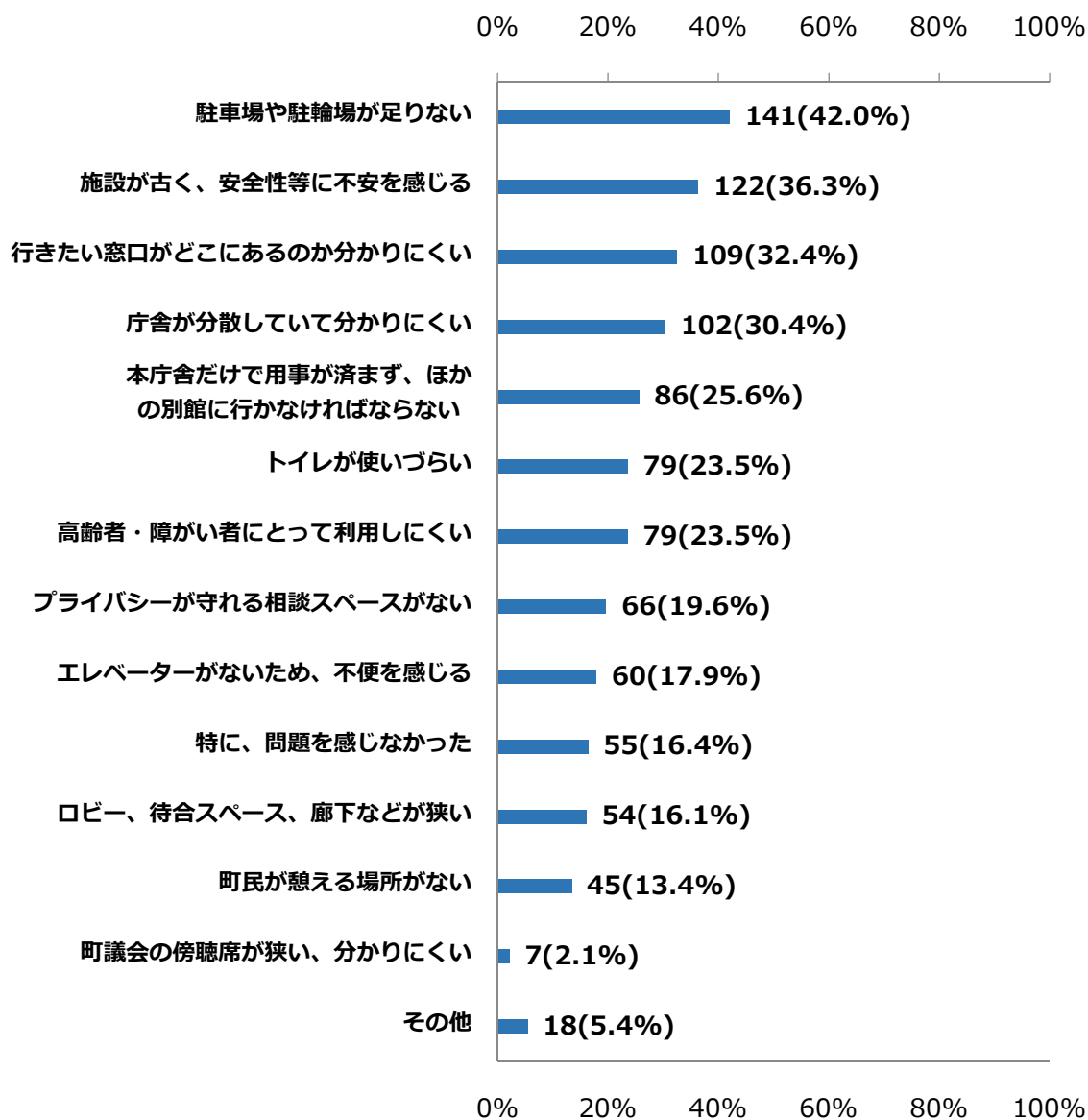
(4) 役場利用の用件

役場に訪問したことが「ある」と答えた方に、どのような用件で訪問されたか（該当するものすべてに回答）を聞いたところ、「住民票、戸籍、印鑑証明書などの請求や転入転出の住民異動に関すること」が76.8%と最も多く、「その他」としては、「選択肢以外の諸手続き（9件）」「選挙関係（8件）」などがありました。



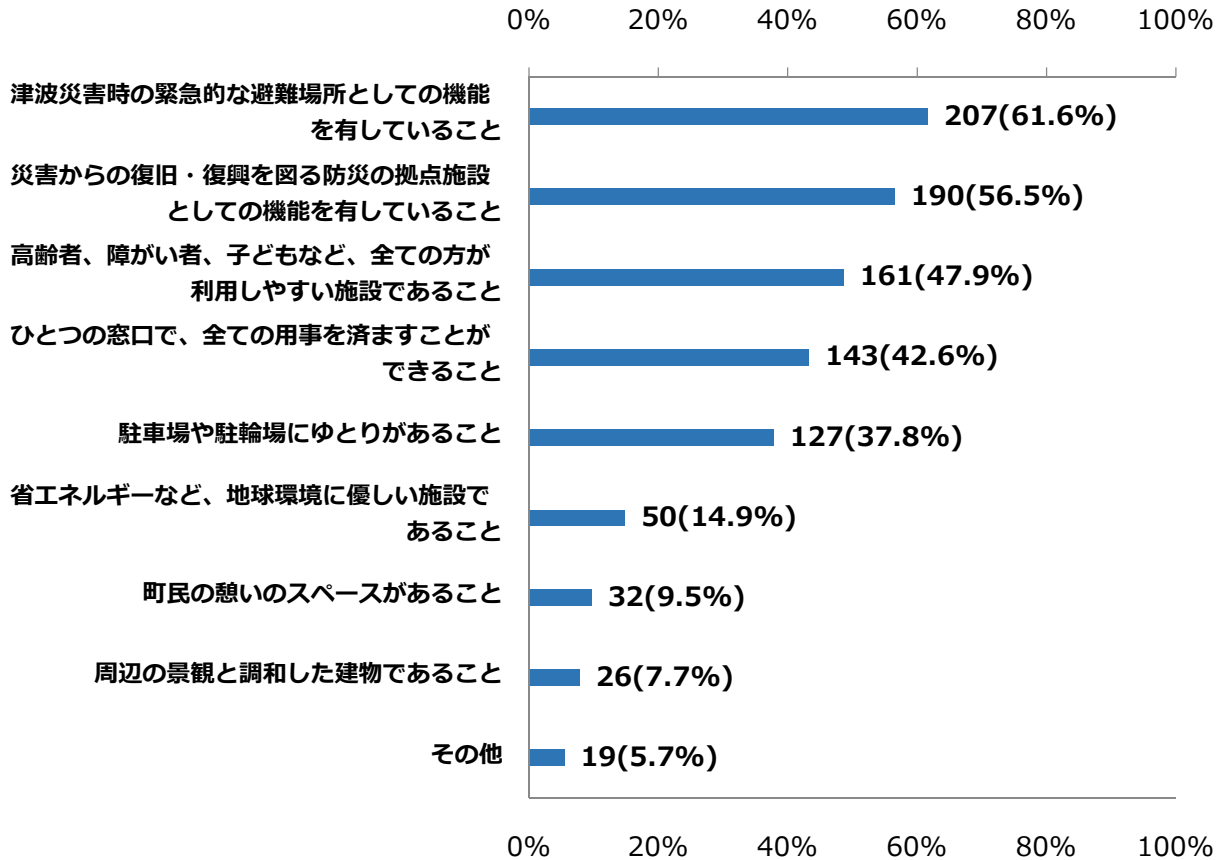
(5) 現在の役場に対する施設面、環境面での感想

役場に訪問したことが「ある」と答えた方に、現在の庁舎の施設面、環境面での感想（該当するものすべてに回答）を聞いたところ、「駐車場や駐輪場が足りない」が42.0%と最も多い結果となりました。「その他」としては、「照明や雰囲気は暗い（10件）」「駐車場の区画が狭い（2件）」というものがありました。



(6) これからの役場に求めるもの

これからの役場に求めるもの（該当するもの3つまで回答）を聞いたところ、「津波災害時の緊急的な避難場所としての機能を有していること」が61.6%と最も多い結果となりました。「その他」としては、「照明や雰囲気をもっと明るく（2件）」「窓口のワンストップ化（2件）」というものがありました。



(7) 新庁舎建設の候補地について

新庁舎建設の候補地について（該当するもの1つ回答）聞いたところ、「津波浸水想定区域外への高台移転」が61.9%、「現在地」が22.3%、「その他」6.8%となりました。

